

第18回ゆとりとうるおい空間整備推進委員会 会議録

日 時	平成23年2月14日(月) 14:00~16:00
場 所	山形県庁10F 1001会議室
出席者	<p>委員 大久保博、奥山匡、武浪秀子、沼澤絹子、麦嘉芳、茂木省三 発表者 県立置賜農業高等学校 環境緑地科 6名 委員会幹事 幹事長(農山漁村計画課菊池課長)ほか幹事4名 委員会事務局 農林水産部農山漁村計画課 5名</p> <p>ほか、山形県各総合支庁農業農村整備事業担当者 16名 計38名</p>
内 容	<p>1 開 会 2 あいさつ(菊池農山漁村計画課長より) 3 議 事(別記のとおり)</p> <p>(1)第17回委員会における指導・助言に対する対応について 平成23年度新規予定地区環境配慮計画の対応状況 資料1に基づき説明</p> <p>(2)若者たちの視点を入れた環境配慮のあり方等について 置賜農業高等学校環境緑地科「めざせ、環境と農業の共生」 パワーポイントにて事例発表</p> <p>(3)環境配慮の取り組みにおける情報発信について 「ゆとりとうるおい空間創造の活動事例集(案)」 資料3,4に基づき説明</p> <p>(4)その他 委員会の進め方とテーマについて 資料5に基づき説明</p> <p>4 その他 5 閉 会</p>

(別記)

3 議 事

(1) 第 17 回委員会における指導・助言に対する対応について

事務局から資料1により第 17 回委員会における指導・助言に対する対応について説明した。
委員からは質疑等、特になかった。

新規予定地区全体に関すること

個別地区に関すること(萩野地区、浅立地区、新西地区、戸沢地区)

(2) 若者たちの視点を入れた環境配慮のあり方等について

大久保委員

- ・ 「若い人たちの情熱・感性といった視点を入れていくには」というような観点で意見をいただきたい。

置賜総合支庁

- ・ 県内の農業高校や工業高校の生徒と共に担い手の育成と世代間協働を通じながら地域を活性化させたいという狙いから平成 21 年度の新規事業として『飛び出せ高校生技能実習で地域協働事業』が創設されました。
- ・ 総合支庁では置賜農業高校へ出向き、校長先生や教頭先生に事業内容を説明し、高校生の柔軟な発想、並びに能力を実習事業として現場で発揮して頂けないか相談に伺ったところです。
- ・ 本日は『めざせ環境と農業の共生 自然環境と共存する水田整備への取り組み』と題しまして、これまでの 2 年間の取り組みと成果について発表していただきます。

置賜農業高校 発表

大久保委員

- ・ 一番苦労したところはどういうところですか。

置賜農業高校

- ・ 魚道を作る上で分からない部分に遭遇した時や環境調査の配置場所を決めた時です。

茂木委員

- ・ 準絶滅危惧種のタナゴが話題に上がっていたが、タナゴは淡水 2 枚貝に産卵するためタナゴを守ろうと思ったらタナゴが成長したり産卵できる環境を作ってあげないといけない。タナゴが卵を産み付ける 2 枚貝を守らなくてはならない。2 枚貝を守るためには砂地や餌もいる。魚種一つを守るだけでなく生態系全体を守ることが一つ柱になるのかなと思いました。
- ・ 魚道入口の位置がなかなか難しいといったお話がありましたが、よく頭首工なんかに設置されている魚道も一番難しいのは入り口です。我々は三次元的に入り口を見るが、魚は上から俯瞰的には見ることができない。どこに入り口があるかわからない。
- ・ 今回、入り口を少し大きくするといったアイデアですが、先ほど第 17 回の委員会の対応という事で宮城県の例がありましたが写真をよく見ると、広くなった水槽の下に土管が入っており魚の隠れる場所が

ある。ただ入り口を広くしているだけではなくて、魚道入り口付近にパイプとか粗朶を入れることによって魚が留まる。魚を集まりやすくすることで、魚に入り口を知らせることができます。

大久保委員

- ・ 魚道だけじゃなく水田農業との関わりをかなり意識した報告だったと思います。測量をはじめ実技をかなりやっているのも評価できる。感心したというか、びっくりしたのは、1番最後の課題として効率と環境との問題を取り上げたこと。これから必要なことだと思いました。

奥山委員

- ・ 若々しい新鮮な心が伝わってきて、山形県の農業も明るさが増したような感じがしました。
- ・ 予算節減ということで、お金がなくてもできることは一杯あるんだという県と農業高校生との見事なコラボレーションを見せていただいた思いがします。
- ・ 「後輩にも成果を引き継いでいきたい」というお話がありましたが、是非繋いでいって欲しい。置賜農業高校の伝統にしてもらいたい。応援したい気持ちになりました。
- ・ 農業をやるということは本来、単なる食料供給するだけでなく命の感動があると思うので、農業高校生も積極的に飛び出し生産現場で新鮮な感動を覚えて欲しい。
- ・ 我々にはない感性や感情というか、大人には見えないものが見えるという高校生ならではの感性があると思うので、県の方々には今後も若い人たちの力を大いに引き出して欲しい。
- ・ 若い力と言えば農業高校生だけでなく他の高校、大学にもそれぞれの分野に長けている学生さんがいるわけですので、県の方々には是非そういった方の夢と感動を引き出してほしい。

沼澤委員

- ・ ほ場整備をやる場合、農家の人に意見を聞くと、大変だからこうしてもらいたい等、整備という二文字だけが先行してしまう。高校生の皆さんからは、貴重な資源が残っていることに目を付けて、最初从这里から取り組んだ事により、農業は生産の場だけでなく、色々なものを抱き込んでいるのが農業なんだということに気付かせて頂いた。
- ・ 勾配が違ったことによって何か違いは見えただけでしょうか。

置賜農業高校

- ・ 勾配を二つ、11度と4度を設けたことによって、傾斜に対応した魚が確認されました。なだらかな方の傾斜ではナマズ等といった大型な魚類等が確認されました。

麦委員

- ・ 現状は排水不良により工事を実施するわけですが、今回の調査は工事を行う前に実施している。結果的に工事は止まったままなのではないでしょうか？環境整備の仕組みについて農家の人たちへの説明はどうなっているんですか。教えていただきたい。

置賜総合支庁

- ・ 今回の水田魚道の試験施工の内容については実施する前から地元の委員会役員を通して地域の方々に周知を図っている。また実際の工事をやる前から、その経過についても随時、委員会及び地域の役員の方を通して情報を提供している。
- ・ 平成 23 年度についても引き続き調査を行っていきますので合わせて状況報告をしながら、どのようなものを作っていけばいいのか、更に検討していきたいと思います。

武浪委員

- ・ 外に出て現場とタイアップした学習は今が一番いい時期かもしれません。今後、社会に出て上の学校に行ったとしても、なかなか最近の外に出る機会も少ないので、大切にして欲しいと思いました。
- ・ 若い方の取り組みが行政に関わることによって地域の方の自然環境、環境配慮とかの理解を大きくするのではないかと思います。こういう機会がないと大抵、県の職員の方とか地域の担当課の方が行って環境配慮について説明する。それだけだと理解不足の方が多いと思う。
- ・ 高校生も入ることによって環境配慮に対しての理解の深まり方が違うと思います。置賜農業高校だけでなく色々な学校に呼びかけながら広めて頂きたい。

(3)環境配慮の取り組みにおける情報発信について

大久保委員

- ・ 担当者用で、各事例の県の担当者や地元の関係者等のリストがあると問い合わせが出来る。
- ・ 活動事例の項目集計表で維持管理の下に波及効果とあるが、その効果ということでいくと、前半の計画の項目に相当するようなものがここにできて、うまくいったとか、いかなかったとか、それ以外にこういう波及効果があったとか、その方が見やすいのでは。あるいは実践段階で計画段階のものが全てやられたのか、それともやっていく途中で一つ削ったとか、そういうことがあるのか、無いのか、そういうものを入れるといいのではないか。
- ・ 平面図とか断面図とか非常に分かり安いけど一般向けではどうかと思います。担当者用にはいい。

武浪委員

- ・ ホームページの方で一般向けに載せられるということで、希少種の掲載については、かなり配慮して頂きたい。今の資料の中にも、かなり希少種が入っているので気を配って頂きたいと思いました。
- ・ 一般向けなのでもう少しソフトに作った方がいいのでは。環境配慮型の排水路とか記載する場合、一般向けだとすれば概略はありますが、もっと具体的に示さないと、なかなか分かりづらいのかなと思いました。もう少し簡略化した方がいいのでは。
- ・ 活動事例の項目集計表で、これだけ環境配慮の分野をやっているのに波及効果の項目が少なくて非常に寂しいと思いました。実際はもっと波及効果がたくさんあると思います。単に項目の作り方が足らなかったのかと思うので、もう少し見えるように項目を整理して対応させた方が良かったと思います。

奥山委員

- ・ 一般向けに発信されるホームページ用については、うまくまとめられていると思う。全体像が見えるように山形県の地図の中に地区名を入れて操作できれば、ずっと入っていけるのではいか。
- ・ 活動事例を事例発表会のような機会を設けて、発表を通じて発信して頂きたい。
- ・ ホームページは一方通行。電話でなくてもネットで問い合わせする形があっても良いのでは。ネットで受け手からの質問、提案ができるような双方向性も将来的にできればいいのでは。

沼澤委員

- ・ ホームページも確かに良いが「ゆとりとうるおい」の中で、色んなものを紹介するにあたって、もう少し情報を出した方がいい。
- ・ 置賜の水田魚道のような色んな取り組みをしている地区があるということが一目瞭然で分かるような仕組みづくりが必要。魚道付近にちょっとした案内看板等を設置して頂ければ、みんな気軽に行ける。
- ・ ホームページの中で「ゆとりとうるおい」の活動内容だけでなく整備内容に関する必要。整備内容が分かる資料も紹介して頂ければ色々考える余地が出てくると思いました。

大久保委員

- ・ ホームページ用は誰に対して情報を発信するのかによって内容が大分違うという感じがする。土地改良区の人たちに対しては、足りなさそうだし。ホームページは非常に難しいなという感じはします。
- ・ 一般の方でちょっと見てみようかという程度であれば、もっと簡単なイメージでいいのかもしれない。
- ・ ターゲットの絞り方って非常に難しい。県庁のホームページなので特定のターゲットに絞るわけにもいかないでしょうから。かといって初級者用、中級者、上級者といった風に分けるのも難しいと思う。ある程度、情報発信して更新していくことを想定していく必要があるような気がしました。
- ・ ホームページを見て問い合わせ先やこういうことを教えて下さいとか、そういう意見がだいたい出てくるでしょう。ある程度溜まった段階でもう一回見直すのもホームページ用では必要かもしれない。
- ・ まずはスタートすることが大事なことだと思います。

茂木委員

- ・ ホームページは、なかなか最初から最後まで読む人はいないかもしれません。目次的なもので課題面を掲載することによって、もう少し食いつき安くした方が良いのでは。
- ・ メダカとかホトケドジョウとかホタル等入っていると、そういうことに関心がある方はそのページを見るんでしょうけど。生態系に配慮した水田ほ場の整備という題名だけでは、なかなか飛びつけないかと思います。課題面が特定されていれば別に副題なんかをつけて、ごく簡単に何を対象にした環境整備なのか分かれば目次としてもいいのでは。

大久保委員

- ・ キーワードとか出ていれば、見る側は全部見なくてもいいかもしれませんね。
- ・ 生き物関係を調べる時に、県が解説している所にリンク出来ると見やすいと思います。

表委員

- ・ 住民参加で色々な事例を見ますが、多分どのような調査でも活動をやっても必ず農家の人との対立というか、良いこともあれば悪いこともある。
- ・ 例えば先程の高校生の例でいうと排水がしにくいことによって工事をしなければならない。だけど、そこにとっても大事な自然があるので動いてはいけない。その矛盾点を書いて頂ければいいなと思います。一つ一つの活動の中に住民参加があって、全員が賛成するわけではないと思うので、良いことも悪いことも書いて頂ければなと思います。

沼澤委員

- ・ 当日配付資料の中で気になった事がありました。実践で住民参加は、ほとんど「 」がついていますが、維持管理の波及効果の中で住民の維持管理についてほとんどついていない。活動指標の住民参加について一部の人でも参加したら「 」がついているのか。
- ・ 維持管理の波及効果では向上の意識が上がったので「 」がついているのか。住民の維持管理の「 」の捉え方についてお聞きしたい。

事務局

- ・ 環境意識向上については単純に、こういった取り組みを行った事によって地域の住民や子供たちが環境意識に芽生えたとか、そういった地区は「 」。あくまでもこの事例集を読みとって「 」をつけております。事例集に書いていない地区もあると思うので、実際はもうちょっと多いのかなと思っております。
- ・ 住民の維持管理についても事例集の中で、組織が結成され農家や土地改良区じゃなく住民が維持管理していくという地区だけを「 」としております。

大久保委員

- ・ 先程質問あった実践のところの住民参加というのは一時的に活動したという意味ですか。

事務局

- ・ そうです。計画段階にそういった点で生き物調査をしている地区、高校生が加わる等、そういった部分があれば住民参加として「 」を付けております。内容の薄い濃いとか結構ありますが。

沼澤委員

- ・ 住民維持管理は農家以外という説明がありましたが、住民というのは農家も含めた形で捉えるべき。
- ・ 農家とか非農家とか、そんな分け方でなく住民の維持管理というものを捉えて頂けたら良いのでは。

事務局

- ・ 了解しました。

大久保委員

- ・ この資料がそのまま、ホームページに載りますか。地図とかも入れた方がいいんじゃないでしょうか。

事務局

- ・ もう少し整理して載せた方がいいような御意見もあったので、今後検討します。

菊池農山漁村計画課長

- ・ 当日配布させてもらった一覧表についていろいろ御意見がでていますが、事例集をまとめるにあたって、どういう方向があるのかなという議論のために整理しました。
- ・ 色々御意見頂きながら計画をつくり、それを現場の方で実践し、どうなっているか、その一連の流れ。それから挨拶のなかでも申し上げましたが、今後「ゆとりとるおい空間整備」の委員会がどういう方向で議論して頂ければいいのかなというような方向で、今回取り上げた事例集を事務局サイドの目で整理しました。
- ・ 住民参加については、色々議論しました。住民の維持管理という点についても、維持管理組合が出来上がっているようなものだけを取り上げました。例えば、自治会組織の中に組み込まれていたりすると、なかなか表面化してこないということもあると思います。「 」印と空白を整理していくと、この地区に対してはどんな仕掛けを次にしていけばいいのかを考える一つの目安という形で整理してみたということです。これをもとに今日の皆様の御意見を反映させながら、今後どういう風に我々の環境配慮を高めていくかといった方向付けのために使っていきたいと考えています。

(4)その他

大久保委員

- ・ 最近では、自由化の話や食料自給率をどうするのか、あるいは生産人口がかなり減っていくという話もある。休耕田も相当広がっており、なかなか歯止めがかからない。それをどうするかというのもある。課題を挙げたらきりが無い位。そういう課題のあげ方もあるが、委員の皆さんの夢の農村風景でもいいでするので自由に意見ををお願いします。
- ・ 先程、茂木さんの方から指摘ありました2枚貝とタナゴの話に関連して、現在、農村整備事業では生態系ピラミッドの上位に位置するものを保全すれば、餌資源なり、そういうものが保全される。つまり少ない調査費で、あるいは少ない対策費で行える。これからの調査では既に実施した地区内でも生態系ピラミッド等を意識したような調査が必要になる。

茂木委員

- ・ これからのテーマで個人的に関心があるのは、整備後の答え合わせだと思います。実際、整備前に生き物調査を実施しており、工事完成後にもう一度、生き物調査を実施すれば、個体数等の変化があったかどうか。無ければ巧くいっただということになりますし。もし何かが欠落していれば、何故その部分が無くなったのかを検証すれば今後の新たな工事地区の参考にもなると思います。
- ・ その観点で言えば上から2番目の環境配慮の取り組みの検証に少し関心がある。
- ・ 1番最初の13年度以前の地区の生物多様性についても、その地区の生物調査と環境配慮した工事

後の生物調査を比べれば環境配慮したことで守れたものと、そんなに変わらないもの等が浮かび上がってくるのでは。

- ・ 2月のテーマとしては既存地区の追跡調査、検討等がよいのでは。
- ・ 3番目4番目、特に4番目なかなか面白いテーマですが非常に難しい点があるのかなと感じた。

大久保委員

- ・ 生物多様性という言葉は、非常に漠然としている。種がどんどん絶滅して行って人類に警告を発しているというシナリオの元での生物多様性という理解。中には生物多様性が増えて悪い事もあるが、減るのは悪いということからしても、農地の生物多様性が低くなった理由は、をはっきりさせておかないといけない。農薬やコンクリート化もあるかもしれませんが、ただコンクリート化だって、ものの作りようによってはコンクリート化というような一般的な話ではない。
- ・ 何故、どこで、どのように生物多様性が落ちてきたかということが知りたい。そうすると改善の手を色々入れやすいかなという気がします。土水路が全て良いかということ、全て良いとは思えないしコンクリートだって、やりようによっては色々できるだろうと、素材の問題ではないと思う。コンクリートか土かの違いではないという気がします。

沼澤委員

- ・ 私の土地改良区は500haの小さな区域の中で、周りに集落があり、集落の人が他の土地改良区にも田んぼを持っている。基盤整備も遅かったこともあり、ここは田んぼを作って他の所で転作することになっているため休耕田が少ない。理事会でも「転作があるから耕作放棄地が増えるって話が1番問題だ」という話になりました。
- ・ 食料の自給率を上げなくてはならないが米はいらない、米以外の物となると手間がかかって農家の人が尻込みをしてしまう。水田を畑地化にしてしまうとなかなか元に戻せない中で、水田をどのように活用していけばいいのか、といった若い担い手さんから意見があり、すごくありがたいなと思いました。

大久保委員

- ・ ベトナムの米料理を見て感じたことは、日本の米料理は本当に少ない。米を炊いて食べるか、お粥位しかない。日本は昔から貧しかったため米を食べられるようになってから日が浅い。だから米料理がそんなに完成されていない。炊いて食べるだけでは米の消費量は少ないんだろうな。
- ・ 土地改良区では色々な人を集めて米料理の工夫等やられているんでしょうか。東南アジアのお菓子づくりにしても、米のお菓子や生春巻きがあり、凄く米を使う食文化が多い。それに引き替え日本は少ない。中国はどうなんですか。米を使う料理とか。

麦委員

- ・ 中国は大きいので北は完全に麦文化で米は食べない。山形に嫁いだ中国のお嫁さんに聞いたところ、1番辛かった事は三食、米を食べること。米は全く食べないし、慣れていない。
- ・ 台湾にはビーフンがあり、米を細くして天日干して、蒸したらその上に海鮮や大根を干したものを入

れている。暑い国ですのでたくあんではなくて天日干しですね。また違う風味が出てきて工夫も多い。

武浪委員

- ・ 1ターン1ターン等、新規就業者を希望してくる方がいる。今年も二人新しい1ターン者がおり、それで何をしたいかという農業をする。新規就業者は都市の方に住んでいる方が多いので、以外に環境に配慮した農業に取り組みたいとか色々な考えを持っていると思う。そういうところを都市との交流や、色々な物つくるときのアイデアを一緒に考えたりして地域の商品化に繋いでいってはどうか。
- ・ 今後の少子高齢化により担い手が減っていく中で、新規の方がどのように関わっていくか、環境配慮や山形県ならではの農産物と関わり合えるかというのも考えてもいいのかなと1つ思いました。
- ・ 何か資源をせっかく作ったとして米パンとか米製品にしても、広報を巧くしないと、なかなか売れないと思う。今回のつや姫については、随分広報したようで非常によかったと思います。ホームページの一般向けとしては置賜農業高校のスライドは非常に良いと思う。県のホームページにリンクを貼って欲しいと思います。
- ・ 庄内農業高校での実技技能実習を行った際にも学校のホームページにリンクをして、こういう活動を実際やりましたというPRをして欲しい。学校にとっても、良いPRに繋がっていくのでは。

大久保委員

- ・ 少子高齢化の中、労働力確保の面での解決方法は、家にいる女性を如何に引き出してくるにかかっているのでは。女性が出てきやすい農業っていうか、そういう部分もあるかなと、思います。

奥山委員

- ・ ちょうど10年たったということで、1つの節目。これまでの取り組みを振り返って、次を見据え、更に深く商品化といったところまで繋げていく。
- ・ 下の3つはこれまでの10年の歩みを振り返って先を見据えると、1つ目のテーマは平成13年度以前に完成した所に「ゆとりとうるおい」の視点を当てるといって、これはこれで大事なテーマかなと思う。ただ平成13年以前10年前ですので住民をどういう風に動かしていくかというか、その辺の課題等いろいろ浮かび上がってくると思います。
- ・ ただ10年前に取り組み始めた所と、最近取り組み始めた所と、色々あるわけですが、一括りに検証するというのも時期尚早という所もでてくるんでしょうし、そういう意味では優先順位って言いますか、やり方といった所に焦点を当てて当面のテーマにした方が良いのかなと思ったところです。

大浦計画調整主幹

- ・ 私共の問題意識は、今まで生産性向上だけの視点で整備してきたが、生物多様性にどう関わっていけるのかということ。大久保先生が言われましたように色々難しい部分です。奥山さんが言われたように農家の人の意識の問題があります。この10年を振り返ってみますと環境配慮の考え方を農家に示し、「生態系に配慮してコンクリート水路で装工しないで下さい」と言うと、「誰がそれを管理するんだ」ということになり、色んなところでバッティングする。
- ・ でも、そういう事も少しずつやっついていって家根合の米の販売とか色々な所に芽が出てきた。そ

ういうことを今まで話してこなかった地域に対してそういう声かけをして、取り組みをしていくことが大事なのかと思っております。

- ・ 大変な課題だと思いますが、予算の無い中で、どうやって生き物調査や農家の方と一緒にやっていくのか。なかなか難しい部分ばかりですが、姿勢としてそういうふうにやっていきたいと思っているところです。

菊池農山漁村計画課長

- ・ 米をめぐる情勢の中で、環境配慮型の農業っていうのが従来にも増して強く出てくると思われます。今、水利施設を守る共同活動を交付金事業でやっておりますが、これに加えて営農支援ということで環境に配慮し、化学肥料とか農薬とかを従来の作業形態から5割位減じる取り組みをこれまでも進めてきましたが、更にその方向が強くなるという制度が出てきます。これらに備えて整備した所でも、もう少し環境配慮を意識しながら環境保全型農業を推進する人たちの後押しを出来ないのかと思います。やっぱり消費者の方々に、今後もどういう環境で作られた農産物なのかということをしっかり説明していかなければならない。
- ・ そこに我々の出番が出てくる。これまで環境配慮までなかなか手が回ってなかった昭和50年代に整備した地区とか、未整備箇所をもう一回そういう面で見直しを進めていけないだろうかというのが一番目です。ただ、どこまで農家の方と折り合いを付けるかが一番大きな課題と思います。今後の農業、山形県の米づくりを考えた場合にその周辺の調査をしっかりしておかないと他県から負けるという思いがあり、1番を最優先課題としてあげたところでございます。

大久保委員

- ・ 色々な考え方ありますが、例えばミティゲーションの考え方と言えば、代替法っていいですか、オンサイトでだめならオフサイトという、つまりロスをゼロにすればいいという考え方。
- ・ 例えば県が単独でその部分のみを直轄的な事業でやれるとすれば手法は、もの凄く広がるわけですが、そういう可能性はないんですか。
- ・ 例えば休耕田を土地買収して、そういう所を整備し、ロスをそこでゼロにしてしまう。もっと積極的な対策をとれる可能性はあるんですか。

菊池農山漁村計画課長

- ・ 次の時代の農業農村を考えるとということだと思いますが、確かに耕作放棄地の問題とか、先程言った生産人口が減少する中で、どういう農業が良いのか。農地を大きくして担い手に集中するのがいいのか。それとも小規模で環境配慮型の方がいいのか。その方向性がはっきり決まったとは言い難いと思います。その中で先程、茂木委員からありましたが、ずっと前にやった環境配慮がどうなっているのか。その評価にオープンな手法を取り入れれば何とかかなるのではないかと。絶対にできないことではない。ただ、それを打ち出すのにまだ情報が不足している部分があるのでまずその評価とあるべき姿の議論をしていきたい。

大久保委員

- ・ これで委員会を終わりますがよろしいでしょうか。それでは進行をお返します。

渡邊農村整備課長

- ・ 本日は大変ご熱心なご議論大変ありがとうございました。事務局としましても非常に参考になる御意見を頂きました。また頂いた御意見につきましては、検討したいと思います。いずれにしましても本日、今後の委員会の進め方といいますか 10 年目の節目ということで、このような事をしていくんだという議論をして頂きました。
- ・ 本県は「ゆとりとるおい」ということで他県にも増して、農業農村整備を実施する際に環境に配慮して先進的に取り組んできている県でございます。取り組み自体にも色々な難しい面もあり、課題も多いわけですが 10 年目を迎えて今後の展開、次のステップアップということで色々検討していきたい。
- ・ そういった中で色んなテーマを設定し、案を示したところでございますけども環境配慮について、本日の議論を聞いておりますと、なかなか難しい課題ではございますし多方面の切り口もある課題であるということで、なかなか難しい課題ではありますけども今後の農業農村整備の動き、あるいは世の中の動きを踏まえましても、このテーマ、非常に重要性が増してくると思います。
- ・ 今後とも、この委員会をしっかりとっていききたいと思いますので今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。本日はどうもありがとうございました。

事務局

- ・ 委員の皆様には、平成 21 年度から委員をお願いしているところでございますが、任期につきましては 2 年となっております 3 月で任期満了になります。2 年間、本当にありがとうございました。なお来年度に向けた委員の改選につきましては改めて皆様とご相談をさせていただくということで御了承いただきたいと思ひます。その際はよろしくお願ひします。

閉 会 (1 6 : 0 0)